

富山経協



シシユズ（解説・17ページ）

CONTENTS

- 2 東部地区会員懇談会（報告）
- 2 講演会（要旨）
『組織』と『従業員』を守るカスハラ対策 ～企業がとるべき対策～
- 4 Top Interview
とやま生活協同組合 寺岡富美夫理事長
- 6 人事労務管理 INFORMATION
- 7 労働指標
- 8 事業活動報告
- 8 特定（産業別）最低賃金の案内
- 9 委員会活動
- 11 見学会
- 12 参加者NOTES
- 13 講座・セミナー
- 16 会員の動き
- 16 新会員の紹介
- 18 おしらせ・事業予定

東部地区会員懇談会

11月7日(金)、ホテルグランミラージュにおいて、125名(会場96名、オンライン29名)が参加して東部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会では、(株)マネジメントサポート代表取締役 古谷治子氏を講師に招き、『『組織』と『従業員』を守るカスハラ対策～企業がとるべき対策～』と題して講演頂いた。(講演要旨は2頁に掲載)

第2部の懇親会では、小林副会長が第1部の内容を踏まえ「先ほどの講演内容や日頃の課題について、地域の同志としてお互い情報交換して頂ければありがたく、参加された企業様のご発展と引き続き当協会へのご支援を頂きたい」と開会の挨拶をした。来賓の佐藤副知事より「富山県では人材確保・活躍推進本部を立ち上げ、対策の骨子案をこの程まとめ、人材確保に努めている」と挨拶があった。

山下会長が、生成AIで作成した富山県経営者協会の東部地区会員懇談会向けの乾杯挨拶を披露し「なかなか無難な挨拶文になった」と述べて参加者の笑いをとり、乾杯の発声を行った。

和やかな歓談が続く中、中締めとして中西副会長



小林副会長
が開会挨拶



佐藤副知事
から祝辞



山下会長が
乾杯発声



中西副会長
が一本締め

から「富山県、富山県経営者協会並びに会員企業、そして皆様が健康で元気であることを願って1年の締めを行いたい」と挨拶して一本締めを行い、散会した。

講演要旨

「組織」と「従業員」を守るカスハラ対策 ～企業がとるべき対策～

株式会社マネジメントサポート
代表取締役

古谷 治子 氏



急増するカスタマーハラスメント

近年、カスタマーハラスメント(カスハラ)が急増し、2022年に厚生労働省が組織の対応指針を発表し、2024年10月には東京都でカスハラ防止条例が可決、制定された。社会全体でカスハラを防止する動きが始まっている。

カスハラとは、消費者からの著しい迷惑行為であり、顧客や取引先などの立場を利用して、従業員

に対する理不尽な要求や暴言、威圧的な言動などの行為。社会通念に照らして著しく不相当なものとなっている。カスハラを放置すると、従業員の離職や顧客離れにも繋がる恐れがある。

クレームは3種類に分類でき、正当な「一般クレーム」は、品質不良や納期の遅れなど、企業として弁償、弁済をしなければいけないもの。商品に対する問題提起とい

うありがたい側面もある。「難クレーム」は根本的な解決が難しい、そもそもの解決策がないもの。そして、本日のテーマであるカスハラは「悪質なクレーム」だ。

クレームを起こさないためのポイントは「消費者の4つの権利」に沿うと分かりやすい。消費者は、①安心・安全を求めるので、企業として品質管理を徹底し、何かあったときのアフターケアを万全

にしないといけない。②知らされる権利。言った言わないをなくするため、書き物にして渡す。③意見を聞いてもらう権利。クレームだけではなく、問い合わせにもしっかりと答える。④選ぶ権利。ねずみ講や、要らない商品を無理やり買わされ、昔はよくクレームになっていた。

クレームを起こさないための「3つの心得」として、①クレームが上がってくるシステムづくり。自社でよくあるクレームをきちんと分析し、答えを用意しておく。②会社としての基本方針を明確化し、現場の新入社員でも分かるようにクレームへの答えや対応の仕方を用意する。③クレームへの解決策を、会社の視点ではなく、一般常識から考えてまともになる対応をとることが大事だ。

クレームの背景

今の時代は、ストレスが多くイライラしてしまう、不寛容社会と言われている。人の受容する心が狭まり、小さなことでもクレーム発生の要因になってしまう。そのような中、クレームが大きくなる原因の67%は初期対応にあり、対応する社員の教育が重要だ。

クレームを言う人の心理は2つ。早く解決してほしい、それと怒りたくて仕方がない。だからクレーム対応は、今起きていることの早期解決と、怒りたいので文句を言わせることが基本になる。

怒っている人の怒りを軽減するには、まず聞くという傾聴力が大事で、うなずくなどの反応を示すことも必要だ。2つ目には謝罪。全面的な謝罪ではなく、部分謝罪に徹する。「説明不足で、申し訳ございません」「ご心配をおかけし、申し訳ございません」など。

3つ目は共感。これら3つをすることで怒りが小さくなる。

カスハラ対策

カスハラ対策の義務化法案が可決され、2026年に施行される。厚労省作成の「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」に示されたガイドライン7つに沿って、具体的に進めることが必要だ。

①事業主の基本方針・基本姿勢の明確化。従業員に周知し、その内容を社長メッセージとしてホームページなどを通して内外に発信する。会社は社員を守ると宣言することは心強いお守りになる。

②従業員(被害者)が気軽に相談できる窓口を設置する。

③対応方法、手順の策定。カスハラと見極める基準は、各企業によって違ってくるので難しい。

④社内対応ルールを従業員等へきちんと教育・研修する。

⑤事実関係の正確な確認と事案への対応。クレーム事案がカスハラに該当するかどうか、どのように対応するのか、事前に弁護士や保険会社などに相談し、適切な対応策を検討しておく。

⑥被害を受けた従業員に対して適切なフォローをする。

⑦再発防止のための取組み。録音するための機材を充実させる、マニュアルを作るなど、各社いろいろとされている。

応酬話法の具体例

「誠意を見せろ」と言われたら、「お客様の御要望を具体的に伺いする規則になっていますので、おっしゃっていただけないでしょうか」。これは平行線になるが、気にせず、クエスチョン・アンド・アンサーで対応する。

大声での誹謗中傷に対しては、「恐れ入ります、怖いです」と相手



に伝える。「そのように威圧的ではお話できかねます」と、そこで話を打ち切ることもできる。

異常としか考えられない長話。何回も同じことを言ってくる方には、「今回のお電話が4度目です。当社としては同じ回答です。御理解、御納得いただけないでしょうか。それでは失礼します」と言って切る。「長時間の拘束でスタッフの時間、職務を妨げることはできませんので」と言って切る。

大切なのは、クレーム対応は誰が答えても同じでないといけない。個人の勝手な回答はNGで、組織としての回答を作っておくことが必要だ。何度もかかってきたら、上位者に渡して対策を講ずる。打ち切り方や、会社としての答えは事前に用意しておく。

なお、他人と接する時に取りやすい行動は人によって違う。クレーム対応など窮地に陥った場合には自分のマイナス面の行動が出がちなので、内面分析ツールなどを活用して自らの行動特性を理解し、気をつけるといい。

今後、カスハラ対策は企業等に義務化されてくるので、実際に対応する現場任せにしておくのではなく、まずはクレームを分析し、よくあるクレームには答えを用意し、従業員が自信を持ってクレーム対応できるルールを作っていたきたい。

みんな 地域でつくる、 とやまの未来 食と福祉のトータルケア

とやま生活協同組合
代表理事・理事長

寺岡 富美夫 氏



2022年に県内の2生協が合併し、「とやま生活協同組合」となられました。沿革をお伺いします。

1959（昭和34）年、労働組合の福利厚生を目的に発足した職域生協「富山県労働者消費生活協同組合」が、多くの県民消費者の方にも加入していただいて地域生協へ移行し、1988年から「富山県生活協同組合」と改称して運営してき

ました。

また、安全・安心な暮らしを守ろうと集まった女性たちが、1974（昭和49）年に「生活協同組合C.O.P.とやま」を発足しました。

両生協とも多くの組合員に支えられてきましたが、少子高齢化や人口減少の進行を踏まえ、組合員の暮らしに役立ち続けながら、さらに広く社会課題に貢献できる生

協となるため、2022年4月に合併しました。

現在の事業構成を教えてください。

宅配事業が92%で、介護施設や訪問介護の福祉事業、夕食弁当を宅配する生活支援事業がそれぞれ約3%。共済事業や富山市堀川町の「みなみ店」も運営しています。2030年ビジョンに、「みんな地域でつくる、とやまの未来」と掲げられています。

合併した2生協は、組合員の生活を守るという思いは同じですが、組織や組合員の考え方は異なりました。そこで合併協議に際し、職員や組合員の方にアンケートをとり、1つに向かっていく新しいビジョンを策定し、合併時に発表しました。

2030年のありたい姿を「県民のより多くの世帯に対し、食と福祉と助け合いの『くらしのトータルケア事業』に取り組み、切れ目なく提供し『住み慣れた地域で、安心して元気に暮らし続けられる』地域社会創りをめざし、組合員と役職員、地域とも協力・協働し挑戦します」としています。

生協だけでできることは限られていますが、役職員、組合員が地域や行政、関係団体と協力しながら社会課題に向き合った活動を通して、心豊かな地域社会づくりに貢献していきます。

－くらしに寄り添う大型店舗－

10月23日に富山市経堂で、大型店舗「C.O.P.きょうどう店」をオープンされました。

生協では宅配が主体になっていますが、ビジョンでも「くらしのトータルケア事業」を掲げています。日常生活では店で買い物をするのが一般的な姿で、組合員が気

軽に集まって相談できる場所も必要と思い、準備してきました。

「くらしに寄りそうあなたのお店」として生協ブランドの商品がいつでも買えることはもちろん、地場の野菜、鮮魚にこだわり、精肉加工や惣菜調理も店舗内で行い、新鮮、作り立てが売りです。2階には組合員ルームを設け、組合員の活動で使うほか、地域の皆様にも集会所などとして活用いただけます。

生協の特徴の一つ、組合員活動について具体的に教えてください。

組合員の活動は大きく2つに分かれ、1つは生協の運営に関わる宅配のおすすめや福祉事業所でのイベントのお手伝いなどを担ってもらっています。それ以外に、自発的な関心事を地域活動や自己啓発活動として行っています。

一般的な商業店舗の会員と違い、生協では1,000円の出資金を預かって組合員になってもらいます。宅配などのサービスを利用する中で興味をもった活動に参加する人も増え、自らの暮らしを豊かにしながら、活動を通じて生協の理解をより深めてもらっています。

デジタル化の取り組みはいかがですか。

宅配事業は専用アプリを北陸3県共同で開発しており、インター

ネット経由での注文が26%になっています。組合員は簡単に注文ができ、配達完了の連絡もアプリで受け取れますし、生協側も注文集計のデジタル化だけでなく、欠品の確認やお知らせがダイレクトにできるようになっています。

組合員の地域活動の中で、SNSによるお知らせや参加の集約も試験的に運用を始めました。

－社会課題の解決に貢献－

魚津、富山、高岡、立山の3市1町と包括連携協定を結んでおられます。

地域の社会課題に行政と一緒に取り組もうと、自治体による子育て支援のおむつ支給事業で生協の宅配トラックが協力したり、集配施設がある魚津市では災害時の一時避難所などの利用についても協定を結んでいます。

高岡市の福祉事業所では定期的に「認知症カフェ」を開いており、施設利用者以外でも認知症の方がレクリエーションを楽しんだり、介護の悩みを持つ家族が交流する場所を市民に提供しています。

今後の目標をお尋ねします。

県内加入率50%を目指し、2030年には組合員15万人、総事業高は210億円を目標にしています。

全ての事業は宅配が基盤になっていますが、組合員の高齢化は進

み、宅配サービス利用者の49.5%が65歳以上で、宅配から弁当配達に移る人も多くなっています。

当生協はエリアを西部、富山、東部の3ブロックに分けていますが、いつでも買い物ができ、集まることができる店舗を、西部、東部にもつくりたいと考えています。

店舗を拠点に移動店舗を展開することもできます。現在、富山市内や立山町・舟橋村の買い物困難地域を中心に移動店舗は、小回りの利く軽トラックが2台走っており、2026年3月までに3台目を稼働する予定です。西部、東部にも店舗ができれば幅広いエリアに訪問できますし、お買い物バスの運行も考えられます。

福祉事業も、県内すみずみで安心して暮らし続けられる社会づくりを目指し、事業エリアを広げていきたいと考えています。

座右の銘は。

座右の銘というほどでもありませんが、「素直な心」を心がけ、毎日自分の足りない部分を反省し、律して、学び、新たな挑戦の活力に変えていかなければいけないと思っています。

会社概要

とやま生活協同組合

設立：1959（昭和34）年4月

所在地：富山市金屋555

出資金：85億6,339万円

事業内容：富山県内全域で、食料品・日用雑貨等の生活必需品を供給する商品事業、共済事業、福祉事業、組合員活動の推進等

従業員数：523名（2025年3月末現在）

組合員数：136,217人（2025年3月末現在）

総事業高：173億3,705万円（2025年3月期）

子法人：(株)とやませいきょうサービス、とやまレインボーファーム(株)

URL：<https://www.toyama.coop/>

略歴

1966（昭和41）年滑川市生まれ。86年富山県労働者消費生活協同組合（現・とやま生活協同組合）に入職、総合企画室部長、事業本部長、専務理事などを務め、2022年4月に発足した「とやま生活協同組合」専務理事、24年6月から理事長。



従業員が65歳に到達したときの被扶養配偶者（第3号被保険者）の手続き

65歳に到達した従業員（厚生年金保険の被保険者）に、60歳未満の被扶養配偶者（第3号被保険者）がいる場合、被扶養配偶者は、第3号被保険者から第1号被保険者への切り替えの手続きをご自身で行った上で、国民年金保険料を納める必要があります。ただし、従業員が老齢基礎年金の受給資格を満たしていない場合、被扶養配偶者の第3号被保険者の資格は継続しますので、切り替えは不要です。

第3号被保険者から第1号被保険者への切り替えの手続きは、お住まいの市区町村役場の国民年金担当窓口またはお近くの年金事務所で行うことができます。なお、マイナポータルからの電子申請も可能です。

65歳に到達する従業員に対して、上記のとおり制度・手続きの周知をお願いします。

《参考》

従業員が65歳に到達した時点の受給資格に応じて、60歳未満の被扶養配偶者が行う手続き

従業員（厚生年金保険の被保険者）の受給資格	被扶養配偶者（第3号被保険者）の手続き
老齢基礎年金の受給資格を満たしている	お住まいの市区町村役場の窓口またはお近くの年金事務所で、第1号被保険者への切り替えの手続きを行ってください
老齢基礎年金の受給資格を満たしていない	手続き不要（第3号被保険者の資格は継続）

19歳以上23歳未満の方の被扶養者認定*における年間収入要件が変わりました

*税法上の扶養認定ではなく、社会保険の扶養認定

扶養認定日が2025年10月1日以降で、扶養認定を受ける方が、19歳以上23歳未満である場合（被保険者の配偶者を除く。）の年間収入要件の取り扱いが変わりました。なお、「年間収入要件」以外の要件に変更はありません。

《扶養認定を受ける方が19歳以上23歳未満である場合の年間収入要件》

【同居の場合】

扶養認定を受ける方の年間収入が150万円未満および被保険者の年間収入の半分未満であること

【別居の場合】

扶養認定を受ける方の年間収入が150万円未満および被保険者からの仕送り額より少ないこと

○年齢要件（19歳以上23歳未満）の判定

年齢要件（19歳以上23歳未満）は、扶養認定日が属する年の12月31日時点の年齢で判定します。

例えば、扶養認定を受ける方が2025年11月に19歳の誕生日を迎える場合には、2025年（暦年）における年間収入要件は150万円未満となります。

出典：日本年金機構「日本年金機構からのお知らせ」（2025年8月号・2025年10月号）

「人事・労務出前相談室」のご案内 ＜初回無料＞

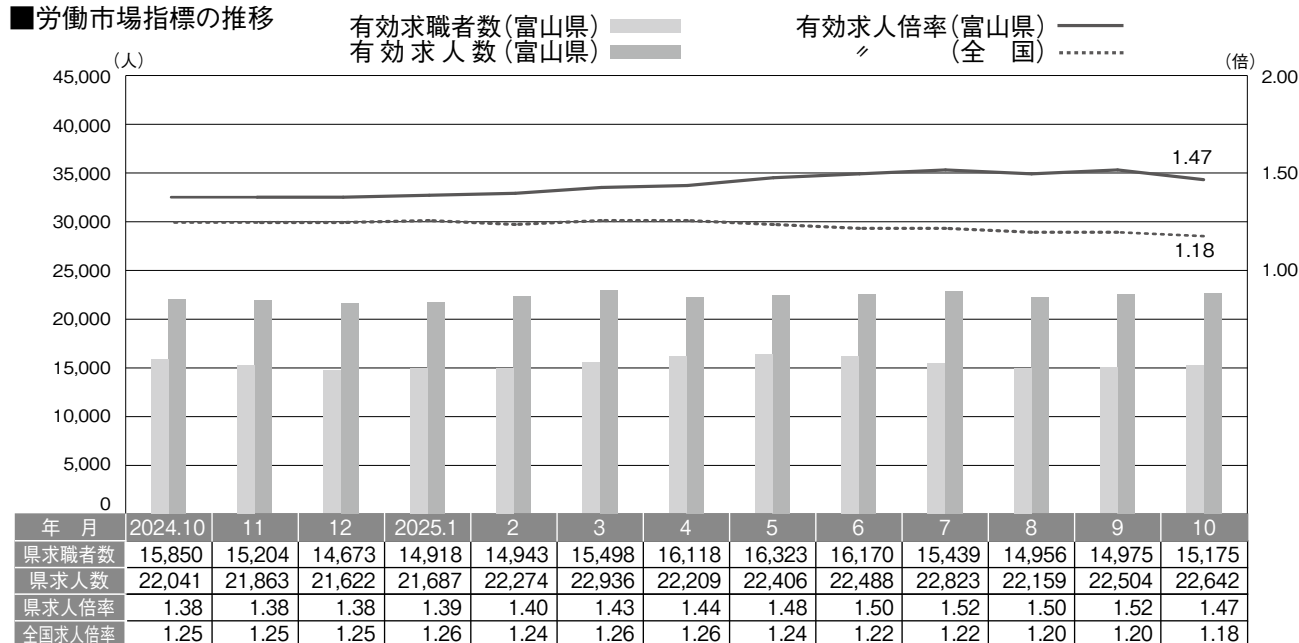
会員企業の皆さまを対象とした、人事・労務に関する出前相談を、初回無料でお受けします。

詳しくは当協会ホームページ「お知らせ一覧」の

『2024 06.10 「人事・労務出前相談室」開設のご案内(初回無料)』をご覧ください。

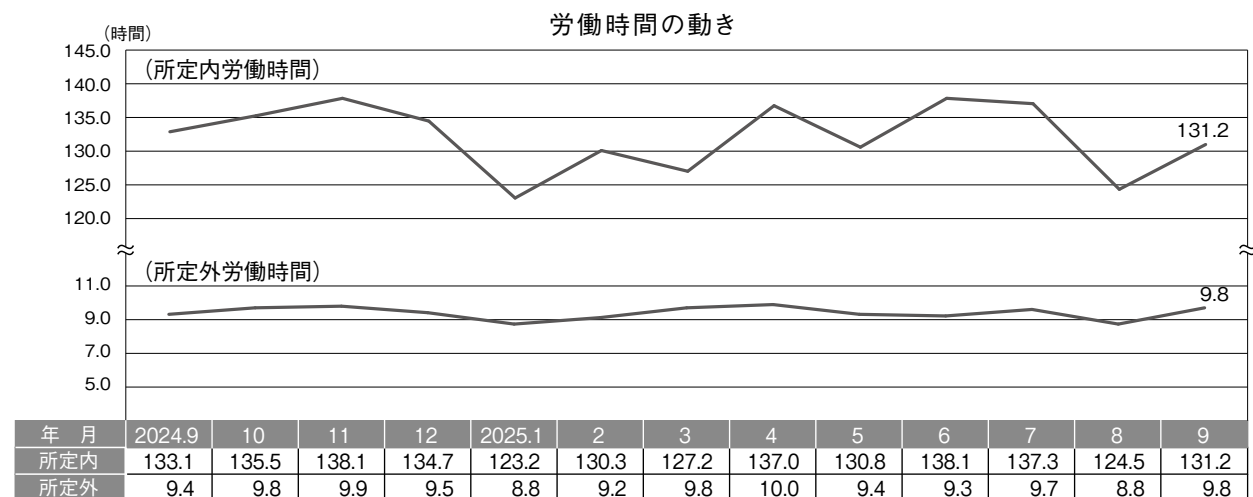
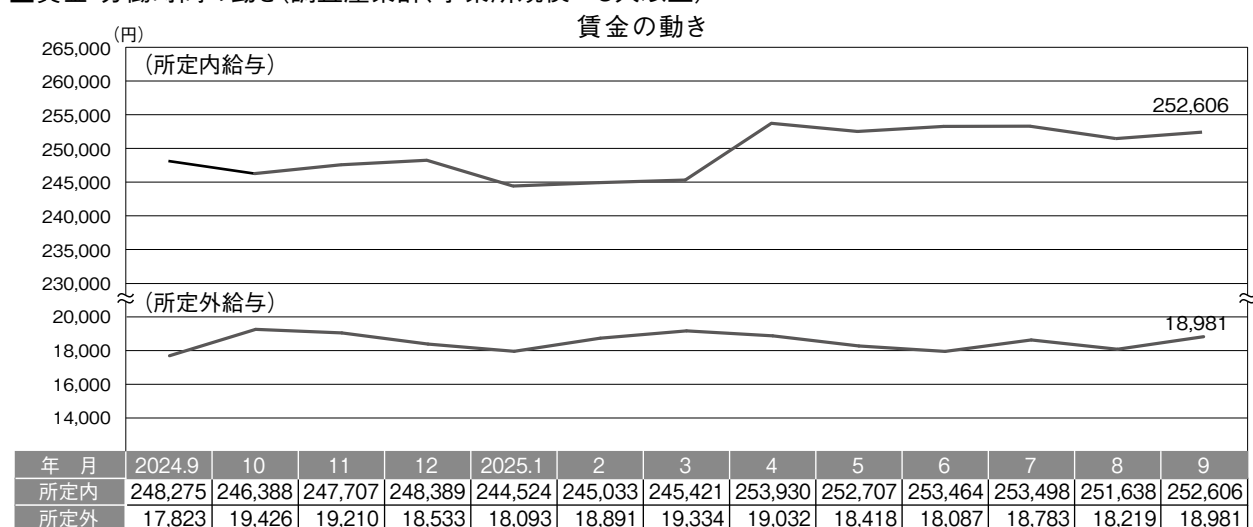
労働指標

労働市場指標の推移



出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html
 注）2024年12月以前の有効求人倍率の数値は新季節指数により改定されています。

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

事業活動報告

2025年10月7日～12月8日

(OL)＝オンライン併用開催

事業名		委員会名	開催日	場所	参加人数
会議	東部地区会員懇談会		11月7日(金)	ホテルグランミラージュ	125名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	11月14日(金)	富山地方鉄道 佐伯記念ホール	9名
	教育委員会「幹事会」	教育	11月17日(月)	タワー111ビル 2階研修室	10名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月17日(月)	タワー111ビル 2階会議室2	7名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	11月18日(火)	タワー111ビル 2階会議室2	8名
	環境委員会「幹事会」	環境	11月26日(水)	タワー111ビル 2階研修室	6名
	品質管理委員会「定例委員会・講演会・グループディスカッション」	品質管理	12月5日(金)	富山経協・研修室 (OL)	30名
会員交流	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月13日(木)	富山地鉄ゴールデンボウル	104名
見学会	品質管理委員会「県外企業見学研修会」	品質管理	10月7日(火)～8日(水)	(株)ダイセル播磨工場 EXPO2025 大阪・関西万博	14名
	環境委員会「県外企業見学研修会」	環境	10月20日(月)～21日(火)	パナソニック(株)草津工場 北陸電力(株)敦賀火力発電所	13名
	総務交流委員会「施設見学会」	総務交流	10月27日(月)	有峰ダム	13名
	経営企画・IT委員会「活動紹介・施設見学会」	経営企画・IT	11月14日(金)	富山地方鉄道・稲荷町テクニカルセンター	13名
講座・セミナー	ヒューマンエラー未然防止セミナー	品質管理	10月10日(金)	富山経協・研修室	42名
	品質・生産性向上のための課題解決支援研修	品質管理	10月14日(火)・28日(火) 11月11日(火)・25日(火)	富山経協・研修室	16名
	労務管理実務講座	人事・労務政策	10月15日(水)・29日(水) 11月12日(水)・26日(水)	富山経協・研修室 (OL)	13名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月16日(木)・30日(木) 11月6日(木)・27日(木)	富山経協・研修室 タワー111ビル 2階会議室1	28名
	管理職中級ステップアップコース	教育	10月21日(火)・22日(水)	富山経協・研修室	25名
	ヒューマンエラー未然防止セミナー【追加開催】	品質管理	10月23日(木)	タワー111ビル 4階ギャラリー	33名
	改善セミナー・基礎編	教育	10月23日(木)	富山経協・研修室 (OL)	34名
	ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー	品質管理	10月24日(金)	富山経協・研修室	35名
	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	11月4日(火)・5日(水)	富山経協・研修室	29名
	若手社員実践コース【A日程】	教育	11月18日(火)	富山経協・研修室	36名
	若手社員実践コース【B日程】	教育	11月19日(水)	富山経協・研修室	32名
	労働法実務講座<第3回>	人事・労務政策	11月20日(木)	富山経協・研修室 (OL)	34名
	変化点管理の考え方・進め方セミナー	品質管理	11月21日(金)	富山経協・研修室 (OL)	25名
	タイムマネジメント研修	教育	12月2日(火)	富山経協・研修室	25名
	5Sと目で見える管理実践セミナー	品質管理	12月4日(木)	富山経協・研修室	35名

特定（産業別）最低賃金の案内

富山県の区域に設定している特定（産業別）最低賃金の改正はありません。富山県最低賃金が適用されます。

最低賃金の件名	改正の有無
富山県玉軸受・ころ軸受、他に分類されないはん用機械・装置、トラクタ、金属工作機械、機械工具、ロボット、自動車・同附属品製造業 最低賃金	2025年度は改正しません。このため、富山県最低賃金が適用されます。 富山県(地域別)最低賃金 時間額 1,062円 (2025年10月12日発効)
富山県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業 最低賃金	
富山県百貨店、総合スーパーマーケット 最低賃金	

総務交流委員会

■施設見学会

10月27日(月)に、水谷委員長以下13名(委員7名+会員6名)が参加し、有峰ダムで開催した。

展望台にて、有峰ダムは当初富山県営の電気事業として1937年に工事が開始されたが第二次大戦のために中断、1951年に電気事業再編により北陸電力が発足し、戦後の経済成長に伴う電力の使用量増加に対処するため、1956年9月に工事が始まり、1960年8月に完成。高さは140mで、堤頂長500m、貯

水量は2億2300万 m^3 であることの説明を受けた。

次にエレベーター棟まで歩き地下4階まで下りる。ダムの堤頂では気温が13度であったのが地下4階では気温が9度まで下がった。ダム内部では年間を通して気温が9度と一定で日本酒の長期熟成に適していることから、点検用通路に日本酒が貯蔵されていた。ダム下流に設置してある展望台広場に到着すると、見上げる有峰ダムのスケールの大きさや周囲の大自然



の景色に感動した。

今回の見学を通して水資源と発電の大切さ、そして保守管理の重要性やダムの裏側にある苦労や歴史を実感した。

■会員交流ボウリング大会

11月13日(木)、富山地铁ゴールデンボウルにおいて開催し、26チーム104名の参加者があった。

(株)スカイインテック 中川和之氏による始球式の後、一斉に競技が始まり、和気あいあいとした雰囲気の中、熱戦が繰り広げられた。

ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と一人ひとりの2ゲーム合計スコアで

競う個人の部で行われ、女性と男女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンディを適用した。

主な成績は下記の通り。団体の部は日本海ガス(株)チーム、個人の部は斉藤琢也氏が優勝した。表彰式では、自社参加チームの応援に駆けつけた総務交流委員会副委員長の北日本放送(株)代表取締役社長島谷浩司氏に各賞のプレゼンターを務めていただいた。



団体の部優勝の日本海ガス(株)チーム

<上位成績> (団体の部)

優勝 日本海ガス(株)
準優勝 武内プレス工業(株)Aチーム
3位 北陸電子(株)

(個人の部)

斉藤 琢也(日本海ガス)
谷田 卓也(日本海ガス)
長谷川 大(北日本放送Aチーム)

人事・労務政策委員会

■幹事会

11月17日(月)、タワー111ビル2階会議室において大門委員長をはじめとする7名が出席して開催した。

委員長の挨拶の後、審議に入り、①2025年度事業活動報告及び今後の予定については、年度当初の計画通りに進捗していることが報告され特段の意見はなかった。

②2026年度事業活動計画骨格(案)については、委員長の「見直しをする」との意向を踏まえ、事務局が講座・セミナーや部会などの講師や内容、開催回数を見直した案について審議した。また、企業見学会の見学先候補についても審議し、幹事会としての意見が取りまとめられた。

活動計画骨子(案)、企業見学会



の見学先候補については、12月に開催される第3回定例委員会で審議し、決定する運びである。

教育委員会

■幹事会

11月17日(月)、品川委員長はじめ幹事10名が出席して、タワー111ビル2階研修室で開催した。

品川委員長挨拶の後、2025年度年間事業報告を行った。次に今年度の部会活動テーマ「企業内でのキャリアデザインの状況と推進」について河内部会長が報告を行った。2026年度の活動内容について、

委員会活動に関するアンケート結果をもとに審議した。定例委員会は6月・8月・12月・2月の4回開催、うち8月と12月の併催事業、さらに6月と2月は企業見学会を併催することとし見学候補先について、事務局案をもとに協議した。

次年度の活動計画(案)や研究会テーマについても幹事会案をもとに12月の定例委員会で諮ること



が承認された。

品質管理委員会

■幹事会

11月18日(火)、舟木委員長はじめ幹事8名が出席して、タワー111ビルで開催した。

舟木委員長の挨拶の後、2025年度事業活動報告と2026年度の事業計画(案)について審議した。委員会活動については、幹事会を4月と11月の2回開催すること、定例委員会は、幹事による①企業見学企画部会、②講演・GD企画部会、③勉強会企画部会の3つの企画部会を前年より継続して、7月、9

月、12月、2月の4回開催し、各活動について内容の検討・企画を行う。県外企業見学会については1泊2日で10月に計画すること、6年目となる④会報編集部会については3月の発行に向けて数回計画することなど、活動の骨子について審議した。

また、講座・セミナーについては、改善を加えながら現行の15講座と富山県の受託事業「品質・生産性向上のための課題解決支援研修」を継続して開催することなど



を審議した。

2026年度の事業計画(案)については、12月の定例委員会で諮ることと承認された。

■定例委員会

12月5日(金)、舟木委員長はじめ委員・担当者合わせて30名が出席し、富山経協・研修室で開催した。

舟木委員長挨拶の後、審議に入った。2025年度の事業報告として、幹事会を2回、定例委員会は、12月までに企業見学会と併せて1回、事例発表と併せて1回、講演会・グループディスカッションと合わせて1回の3回開催した。今後の予定として、2月に、勉強会と併せて開催する予定。委員会独自の会報誌「Join♡T」第5号は、3月に発行予定である。県外企業見学研修会は、先進企業を実際に

目で見て体感し、参加者間の情報交換を活発に行った。講座・セミナーは、委員の担当割を継続して実施していることと、募集定員を超える講座もあり順調に推移したことを報告した。

2026年度の委員会活動は、基本的には2025年度を引き継いで進めていくこととし、具体的活動内容は、昨年に引続き企業見学企画部会、講演・GD企画部会、勉強会企画部会で検討することとした。講座・セミナーは、昨年の計画を元に開催することと、新しい講座・セミナーを検討・計画するなど事務局案で承認された。



委員会の後、「製造業のDX推進～現場適用事例と実践ノウハウ～」と題して、(株)インテック 北陸産業事業本部事業推進部 片口好広氏が講演した。その後、委員・担当者が4班に分かれ、活発なディスカッションを行った。

環境委員会

■幹事会

11月26日(水)、林委員長はじめ幹事6名が出席して、タワー111ビル2階研修室で開催した。

林委員長挨拶の後、2025年度の事業活動報告と2026年度の事業活動計画(案)について審議した。2025年度については、7月・9月の定例委員会を報告し、12月11日(木)には「事例発表会」(機電工業会との共催)と併催することを確

認した。

続いて2026年度の事業活動計画(案)について審議し、定例委員会は7月・9月・12月の開催とし、7月は「富山県との情報交換」を併催(機電工業会との共催を継続)、9月「講演会(勉強会)」の併催、12月「事例発表会」の併催(機電工業会との共催を継続)すること、新講座「カーボンニュートラル推進リーダー養成研修」を開催するこ



と等、12月11日(木)の定例委員会で諮ることが承認された。

経営企画・IT委員会

■定例委員会

11月14日(金)、定例委員会に合わせ、情報交換会(活動紹介)を富山地方鉄道(株)地鉄ビル5階 佐伯記念ホール、稲荷町テクニカルセンターで開催した。

第1部の定例委員会は、萩中委員長はじめ9名が出席し開催した。萩中委員長の挨拶の後、事務局より2025年度事業中間状況について報告した。次に経営課題調査(第2回目)のテーマ設定、2026年

度協会活動テーマについて事前の意見を基に審議した。

次回の委員会は次年度の活動計画について審議予定。

第2部の情報交換会は、「富山地方鉄道の取り組み～地域交通の維持確保に向けて～」と題して同社の営業概況、また日本の地域鉄道を取り巻く状況や運営の現状と課題、経営努力等の活動紹介があった。次に会場を稲荷町テクニカルセンターに移し、鉄道車庫見



学を行った。運転席での操作体験や、車両の改造・保守メンテ技術、安全運行に関して関係者の熱い志を感じる貴重な場となった。

見学会

環境委員会

■県外企業見学研修会

10月20日(月)～21日(火)の2日間の日程で開催し、13名が滋賀県と福井県を訪問した。

1日目は、エアコン、エコキュート、冷蔵庫などの国内生産拠点である「パナソニック(株)草津工場」を見学した。同工場は工場使用電力の100%再エネ化電力を実現する手段として、純水素型燃料電池、畜電池、太陽電池の3電池連携によるエネルギーマネジメント実証を2022年度より開始しており、A

Iベースのエネルギーマネジメントシステム(EMS)を一体化することで、不安定な再生可能エネルギーを最適に管理していた。

2日目は、福井県の「北陸電力(株)敦賀火力発電所」を見学した。同所は脱炭素化の取り組みとして2007年9月より石炭の一部を木質バイオマスで代替する「木質バイオマス混焼発電」を実施しており、発電に利用するペレットを貯めておく「サイロ」を新たに8基建設し、2024年11月から木質バイオマ



スの混焼比率を15%に拡大した発電を開始した。また、燃焼時に発生する石炭灰をセメントや土壌改良用素材に活用するなど、資源の有効利用にも取り組んでいた。

品質管理委員会

■県外企業見学研修会

10月7日(火)～8日(水)の2日間の日程で、14名が参加して開催した。

1日目は、大自然が広がる中で、世界でもトップクラスの自動車エアバック用インフレーターを主に製造する「(株)ダイセル播磨工場」を訪問した。ワнтаイムエナジー技術(火薬工学技術)と組立加工技



術を生かした製品で「安全」と「品質」を第一に、モノづくりと人材育成の強化として、共に学び共に育つ「共育センター」を立ち上げており、その中の「安全道場」を見学した。また、火薬の燃料エネルギーで駆動するジェットインジェクター「アクトランザTMラボ」の説明を受けた。工場では、「画像解析システム」と「標準作業解析システム」を見学し、未来のものづくりに貢献する底力を見る思いだった。

2日目は、「EXPO2025大阪・関西万博」を訪れ、世界中の企業や団体が、持続可能な社会の実現に向けた最先端技術や革新的なアイデアを展示しているパビリオン



を巡り、未来のテクノロジー、文化、そして人々の暮らしを垣間見ること、未来社会のビジョンをリアルに体感した。

参加者は2日間の行程を通して他社の活動を実際に目で見て、刺激を受けながら未来の可能性を感じることができた。また、参加者間での情報交換も活発に行い、有意義な見学研修会であった。

参加者NOTES

「県外企業見学研修会」に参加して

サカキ産業株式会社
上越支店

小杉 直人



この度、県外企業見学会に参加させて頂きました。1日目に(株)ダイセル播磨工場を訪問し、2日目は大阪・関西万博を見学致しました。どちらの見学も、今後の社会人としての視野を広げる大変貴重な機会となりました。

1日目の(株)ダイセル播磨工場では、まず国内トップ、世界でもトップシェアを誇る主力製品である自動車エアバック用インフレータの紹介を受けました。また、火薬の燃焼エネルギーを利用して薬剤を注入するジェットインジェクター「アクトランザラボ」の紹介も受け、化学技術が医療分野へ応用されていることに大きな関心を抱き

ました。

工場見学では、「画像解析システム」や「標準作業解析システム」により、作業ミスや設備異常を未然に防止する仕組みを拝見し、デジタル技術を駆使し、安全と品質を両立させる姿勢が印象的でした。さらに、安全・人材育成についても説明を受けました。(株)ダイセルでは「モノづくり」の大切さを新入社員に理解してもらうため、導入研修やモノづくり研修を実施し、理論から現場実習、各部門責任者による講義まで幅広く学べる体制を整えていらっしゃいました。教育施設として組立技能道場・保全技能道場・安全道場があ

り、社員が自ら技を磨き、主体的に成長できる仕組みに、同社の「人材の育成」を重視する姿勢を強く感じました。

2日目は大阪・関西万博を見学致しました。私は韓国パビリオンを見学し、水素エネルギー技術を活用した展示に注目致しました。水素の持つクリーンなエネルギー特性を体験的に学ぶことができ、環境問題への意識を高めるとともに、エネルギー技術が人と自然の共生に貢献できる可能性を感じました。

今回の見学を通して、(株)ダイセル様の「[人]と「安全」を基盤としたモノづくり」、そして万博で示された「持続可能な社会への挑戦」の双方を学ぶことができました。今後はこの経験を活かし、広い視野と探求心を持って会社に貢献できる人材を目指して日々努めて参ります。

階層別研修

■管理職中級ステップアップコース

10月21日(火)・22日(水)、25名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本コースは、中堅課長(管理職経験3年以上)を対象に、価値創出の担い手として戦略の実行力に主眼を置き、特に戦略理解と行動計画への落とし込みのためのスキル獲得を狙いに企画した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタント筒井健太氏は、①管理職の役割、②戦略→実行課題→行動計画への落とし込み、③リーダーシップ、④組織と人の活性化、⑤ブレないリーダーについて、ポイントを踏まえ具体的な事例も交えて解説した。グループに分かれて活発なワークや演習を行い、最後の⑤では、ビジ



ネスの原理原則を正しく理解し、リーダーのブレないベースをつくることについて学んだ。

■若手社員実践コース

11月18日(火)に36名、11月19日(水)に32名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本研修は、社会人生活5年程度の若手社員を対象に、自発的に業務の工夫・改善ができる力を養い、主体的な行動がとれるように実践力を高めることを狙いとしている。

講師の(公財)日本生産性本部風土改革コンサルタント石川歩氏は、コミュニケーションの重要性について講義と体験型の演習を行った上で、PDCAサイクルのポイントを具体的に解説した。ケーススタディでは学んだポイントと課題解決の手順、問題解決のステップ、問題解決プロセス(業務改善)の方法を学んだ。演習を



通して異業種の参加者と活発な議論を交わした。

共 通

■ヒューマンエラー 未然防止セミナー

10月10日(金)、富山経協・研修室で42名、10月23日(木)にタワー111ビル4階ギャラリーで、33名が参加して開催した。

講師の中央大学理工学部ビジネスデータサイエンス学科教授 中條武志氏は「ヒューマンエラーを引き起こす人の特性」について事

例を用いて確認した後、ヒューマンエラー未然防止の考え方と方法論について、「エラーループ化の原理」「作業に潜在するヒューマンエラーの危険の洗い出し方」「対策案を評価・選定する方法」を含め、「ヒューマンエラー未然防止活動」を自分の職場・チームで進めるためのポイントについて講義した。引き続き、グループ演習を行い、



エラーループ化の3ステップの進め方について実戦的に学んだ。

■改善セミナー～基礎編～

10月23日(木)、富山経協・研修室に来場26名、オンラインで8名の計34名が参加して開催した。

改善コンサルタントの東澤文二講師は、経営環境が激変している今こそ改善活動の強力な推進が必要であり、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が大切であると力説した。

問題の裏返しや見える化などの改善の方程式・定石・公式について、工場や店舗などの様々な事例を通して学ぶとともに、改善メモを短時間で作成する実習も行った。改善の定着化、活性化を図り、改善力・改善指導力をつけるには、改善事例と定石の組み合わせの大量蓄積が重要であり、まずは職場で実践してみることが重要であると



した。

■ ISO9001内部監査員養成講座

11月4日(火)・5日(水)、29名が参加して富山経協・研修室で開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものであり、県内においても認証取得企業は多く、義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、本講座を

年2回毎年開催している。

講師の(株)テックス ISOコンサルタント青山俊一氏は、内部監査は不適合の「修正処置」に留まらず「改善ツール」であることを再認識する必要があるとした上で、約1日半のカリキュラムで、ISO9001規格要求事項の理解、ISO9001監査プログラムの概要などについて解説した。2日目の午後からは内部監査の模擬監査演習



を行い、監査所見の作成を通じて自職場で内部監査を行う上でのポイントを学んだ。

■ タイムマネジメント研修

12月2日(火)、25名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の山本伸之(公財)日本生産性本部経営コンサルタントが、「働き方改革」の推進や労働力人口の減少の中で重要性を増したタイムマネジメントについて、「タイムマネジメントの実効性を高める4

ステップとポイント」「組織のムダを発見する際の5つの着眼点」「部署の仕事を減らす3つの切り口」など非効率な働き方を解消するための取り組み方法や、社員一人一人が実施できるポイントやヒント等について講義し、グループワークを通じて体験的に学び、理解を深めた。



労 務 管 理

■ 労働法実務講座(第3回)

11月20日(木)に「懲戒処分をめぐる諸問題と実務上の留意点」と題して、会場15名オンライン19名の計34名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士は、懲戒処分の考え方や判例を説明した後、事案が発

生した際の事実関係の把握から懲戒処分を決定するまで、セクハラが通常は当事者しかいない密室状態で行われることによる困難さ、パワハラも厚労省により定義されたことなど説明した。

今回は、事前に質問が提出されて伊藤弁護士が講義の中で答えるなど、有意義な講座であった。



品 質 管 理

■ 変化点管理の

考え方・進め方セミナー

11月21日(金)、来場21名・オンライン4名、合わせて25名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(一社)中部産業連盟 主任コンサルタント 内山幸二氏は、変化点管理とは5MのMan(人)、Machine(設備)、Material(材料)、Method(方法)、Measurement(測

定)の5つに対し、3H(初めて、久しぶり、変更)の3つの視点で品質の変化を確認し、問題があれば未然に手を打つことであるとした上で、タートルモデルを活用した職場の作業に対する変化点の要素理解から、変化点管理ボードなどを活用した見える化による異常発見の方法、統計的解析手法を用いた変化点管理などの内容につい



て、講義と個人演習を通じて考え方や進め方を学んだ。

■実践しながら学ぶ

統計的手法活用講座

5月22日(木)から富山経協・研修室において開講した「第69回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月27日(木)に15日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理(SQC)の手法を学びながら、職場で起きている身近な問題を上司とキャッチボールのうえテーマ設定し、グループ別にカウンセリングを受けながら、学んだ統計的管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することで、実践的な活用

方法を習得することをねらいとし毎年開催している。

最終日の11月27日には、先に開催された論文審査会でカウンセリング講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、講座全体を通して総合評価上位3名が優秀賞の表彰を受け、受講者28名が無事修了証を手にした。



〈優秀論文〉 ・上田 真史さん (アイシン軽金属株)

・松田 修人さん (コーセル株)

・谷口 智美さん (株北陸化成工業所)

〈優秀賞〉 ・高橋 祐仁さん (コーセル株)

・高橋 遼さん (コーセル株)

・永井 孝紀さん (コーセル株)

〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属株 コーセル株 (株)タカギセイコー

中越合金鋳工株 (株)リッチェル



参加者NOTES

「実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座」を受講して

コーセル株式会社

生産技術部 生産技術一課 高橋 祐仁



私は、直流安定化電源やノイズフィルタを製造・販売するコーセル株の生産技術部に所属し、新製品のライン立ち上げと量産後の生産性改善を担当しています。

入社後にQC手法や統計的手法を学ぶ機会はありませんでしたが、学習から実務活用までに時間が空いたことで、現場で適用する際に不安を感じる場面が多くありました。特に、ライン立ち上げや生産性改善ではデータ分析やばらつき要因の特定が不可欠であるにもかかわらず、知識を実践に結びつける難しさにもどかしさを感じていました。そのため、統計的手法を体系

的に学び直し、現場で活用できるスキルを身につけたいと考え、本講座を受講しました。

講座では、品質管理の基本的な考え方からQCストーリー、検定・推定、分散分析などの専門的な内容まで幅広く学ぶことができました。さらに演習を通じて実際に手を動かしながら学ぶことで知識が定着し、現場での活用イメージも明確になりました。また、研究論文作成に向けたグループディスカッション形式のカウンセリングでは、講師からの直接アドバイスに加え、他の受講者との意見交換を通じて多くの気づきを得るこ

とができました。

こうした学びの積み重ねによって理解が深まり、学んだ内容を論文作成にすぐ反映したことで、統計的手法を実務へつなげる大きな一歩となりました。

受講前は「統計的手法は難しい」という先入観がありましたが、講座を通してそれが「現場課題を解決する強力な武器」であると実感し、積極的に活用したいという意識へと変化しました。

今後は、講座で得た知識を活かしてライン立ち上げ時の工程条件の最適化や量産後の生産性改善に取り組むとともに、後輩指導やQCサークル活動を通じて社内全体のレベルアップに貢献していきたいと考えています。品質と生産性の両立を図り、より安定した生産体制の構築を通じて会社の競争力強化に寄与していきたいと思っています。

生産管理

■ものづくり女性社員のための 改善力向上セミナー

10月24日(金)、ものづくり企業で働く女性社員35名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

経営環境を取り巻く様々な変化を受け、ものづくりの現場においてもますます女性の活躍が求められる中、改善活動で大きな成果を上げている企業では、女性社員が活き活きと取り組み、持ち味を活かした改善が数多く見受けられる

ことから、本講座を企画している。

講師の高林るみ子(株)日本能率協会コンサルティング プロフェッショナルアドバイザー・TPMコンサルタントから、女性社員の活躍に必要な環境づくり・現場活性化の「仕掛け」や「仕組み」として、①改善活動概論、②生産活動の基礎知識、③5S活動の進め方、④改善活動の基礎知識の4つのテーマについて学んだ。グループ演習では不具合や改善の見える化の役



割を担う自主保全活動には欠かせない「エフ付け」について、女性ならではの視点で実際の現場写真に付箋を貼って体験し学んだ。

■5Sと目で見える管理実践セミナー

12月4日(木)、35名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(株)日本能率協会TPMコンサルタントの金子裕行氏は、5Sの目的は、問題だと感じ、整理・整頓を行い、状態を維持する習慣を身につけた人づくり・企業体質づくりであるとした上で、5Sを

定着させるポイントとして、現場の状態が正常か異常か目で見えすぐ分かり、必要な手がすぐに打てる状態にする「目で見える管理」が重要であると説明した。また、演習では講義で学んだ5Sの着眼点から現場写真の問題点を検討し、意見交換と改善案の討議を通じて5S活動の進め方について理解を



深めた。

会員の動き

(50音順)(敬称略)

■代表者の変更(窓口代表者)

金岡忠商事株式会社

代表取締役会長 金岡 浩之(前:金岡寛)

株式会社氷見砂型

代表取締役 小坂まゆみ(前:小坂富代治)

北星ゴム工業株式会社

代表取締役社長 米屋 祐治(前:米屋慎一)

■役職位の変更(窓口代表者)

春日温泉観光開発株式会社(ゆ〜とりあ越中)

代表取締役 小西 弘晃(前:代表取締役副社長)

佐藤工業株式会社 北陸支店

執行役員副社長支店長 川島 康弘
(前:専務執行役員支店長)

■所在地変更

紙ぶらす株式会社

富山市八日町247番地19(前:富山市白銀町2番5号)

多田薬品工業株式会社

高岡市波岡188番地(前:高岡市波岡25番地)

新会員の紹介

(50音順)

■かなうみ株式会社

所在地 富山市山室字浦田割357番16の2

代表者 代表取締役 網谷知富美

設立 2017年(平成29年)7月

資本金 2,050万円

従業員 県内5名

事業内容 人材関係の職業紹介、労働者派遣

■P I S J a p a n 合同会社

所在地 富山市桜橋通り3-1

富山電気ビルディング本館2F

代表者 CEO 山本 敬士

設立 2024年(令和6年)11月

資本金 500万円

従業員 県内1名

事業内容 フィリピン人材専門のワンストップ人材サービス

■ご逝去

ご冥福をお祈りいたします。

金岡 寛 氏(金岡忠商事株式会社 代表取締役相談役)

奥井 聡 氏(株式会社富冷 代表取締役会長)



表紙の実
シシユズ

(富山県中央植物園 園長 中田政司)

ユズよりブンタンに近い柑橘

大きいものでは直径20cmにもなる柑橘類で、表面がデコボコして力強い印象であることから、シシユズ（獅子柚子）あるいはオニユズ（鬼柚子）とも呼ばれています。柚子と名前がついていますがブンタン（文旦）の仲間で、断面を見ると白いワタの部分（アルベド層）が10円硬貨ほどの厚みがあります。

果肉は見た目にはグレープフルーツに似ていて、香りも良いのですが、酸味も甘味も中途半端な締まりのない味で、生食には向いていません。食用には、表面をよく洗って、果皮とワタの部分を細かく切り、砂糖、レモン汁で煮詰めてジャム（マーマレード）にするのが一般的です。

邪気を払う縁起物

名前の「獅子」や「鬼」は邪悪なものを取り払うとされることや、果実が大きいことが「実入りが大きい」に通じることから、家内安全、商売繁盛の縁起物として、正月飾りや店の飾りに使われています。

植物園では、香りの植物区画に、柚子やダイダイなどと植栽されています。残念ながら冬は雪囲いですっぽりと覆われているため見ることはできませんが、入園窓口に飾ってある果実を見ることができます。ネット通販で苗木も販売されているので、自宅で育てて収穫するのが良いかもしれません。



果実の断面と10円硬貨 ▶

きっとみつかる
いい人、いい仕事



job sanko
ジョブ産雇

「失業なき労働移動」の実現をめざす再就職・出向の専門機関



企業と人材を結ぶエキスパート

働く
と雇用を
サポート
6つの
取り組みで

- ① 離職する従業員の再就職をサポート
- ② 人材を確保したい企業に対するサポート
- ③ 「キャリア人材バンク」で高齢者の再就職をサポート
- ④ 雇用を維持するための在籍型出向をサポート
- ⑤ 社員の人材育成やキャリアアップの出向をサポート
- ⑥ 従業員のスキルアップや研修を目的とするセミナー（有料）

費用は
無料



公益財団法人 産業雇用安定センター 富山事務所

〒930-0857 富山市奥田新町 8-1 ボルファートとやま 10 階
TEL 076-442-6900

2026年

新春互礼会



(ご案内済み)

2026年 1月5日(月) 16:00~17:30
(受付: 15:30~)

場 所: ANAクラウンプラザホテル富山 3階 鳳
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

新田県知事ならびに行政の責任者の皆様をお招きして、
県内経済5団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会
- ・富山県商工会議所連合会
- ・富山県中小企業団体中央会
- ・富山県商工会連合会
- ・富山経済同友会

幹事会

(別途ご案内申し上げます)

2026年 3月6日(金)
16:30~

場 所: 富山電気ビル 5階 中ホール
富山市桜橋通り3-1 電話(076)432-4111

<内容>

- ・2025年度事業報告
- ・2025年度収支見通
- ・2026年度暫定予算

事業予定

2025年12月16日~2026年2月16日

詳しくはホームページ(<https://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL = オンライン併用開催

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所
会議	2月16日(月)	14:30~17:00	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	富山経協・研修室
会合交流	1月5日(月)	16:00~17:30	新春互礼会 上記「お知らせ」参照		ANAクラウンプラザホテル富山
講座・セミナー	12月16日(火)・17日(水) 1月13日(火)・14日(水) 2月3日(火)・4日(水)	9:30~17:00	品質・生産性向上のための 課題解決支援研修	品質管理	現場実習企業 インテック大山研修センター
	1月15日(木)	9:30~16:30	C S顧客価値実現セミナー	教育	富山経協・研修室 OL
	1月20日(火)	9:30~16:30	企業倫理研修	教育	富山経協・研修室
	1月22日(木)・28日(水) 2月5日(木)・12日(木)	9:30~16:30	品質管理入門講座 <実践編>	品質管理	富山経協・研修室

「富山経協」vol.892

2025年(令和7年)12月号
2025年12月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952

ホームページ <https://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp